

CYBERNET

IMail Server v12.5.6

IMail Premium v12.5.6

インストールガイド

1:インストール前に	3
1-1: Windows Server での事前設定	5
Windows Server 2008/2008R2 の IIS 設定方法	5
Windows Server 2012/2012R2 、Windows Server 2016 の IIS 設定方法	9
1-2:インストールに関して	16
2:インストーラーの起動について	16
3:アクティベーション	17
3-1:インターネットにアクセスできる環境の場合	18
3-2:インターネットにアクセスできない環境の場合	19
4:新規インストール	24
5: ディアクティベーション/評価ライセンスから製品版ライセンスへの切り替え	34
6:SQL Server オブジェクトの設定	36

1:インストール前に

本書は IMail Server v12.5.6 を新規インストールする際のガイドです。旧バージョンからアップグレードされる際には別紙のアップグレードガイドをご確認ください。

【対応 OS】

- Windows Server 2008 (32bit)
- Windows Server 2008 (64bit)
- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2016

【必要要件】

- Internet Information Service(IIS) 7.0 以上
 - Microsoft Data Access Component (MDAC) 2.8 SP1 or later
 - Microsoft .Net Framework 4.0 又は 4.5 以上
 - Microsoft .Net Framework 3.5 Service Pack 1
- ※IMail インストーラーより SQL Express をインストールする場合に必須です。

【注意】

- ドメインコントローラー上への IMail Server のインストールはサポートされておりません。
- FAQ「ドメインコントローラー上への IMail Server のインストールについて」
<https://secure.okbiz.okwave.jp/cybernet/faq/show/1113>
- IMail Server のインストーラーより Access MDB Database 又は Microsoft SQL Server 2008 Express(SQL Management studio 含む)のインストールが可能です。これは **WebMessaging のアドレス帳情報をストア**する為に利用されます。**メールボックスデータはストアされません。** WebMessaging では仕様上、都度 DB にアクセスします。開発元では **MDB は 10 ユーザ以下の規模での利用、それ以上の場合には SQL Server(又は SQL Express)が望ましい**との見解です。
※WebMessaging を利用しない場合は、MDB 選択で問題ありません。
- **Windows Server 2012 / Windows Server 2016 では IMail Server のインストーラーより Microsoft SQL Server 2008 Express をインストールする事はできません。**事前に Microsoft SQL Server 2010(Express Edition 含む)以降のバージョンをインストールしてください。
- **SQL Server をお使いになる場合、IMail Server のインストール後に本ドキュメントの「6:SQL Server オブジェクトの設定」で説明している設定作業を行ってください。**
- SQL Management studio の設定及び動作についてはサポート対象外となります。
- 新機能又は既知の障害については別冊の「IMail Server v12.5.6 補足資料」をご確認ください。
- IMail Server 既知障害については「テクさぽ」をご確認ください。
<https://secure.okbiz.okwave.jp/cybernet/category/show/249>

- IMail Server ライセンスを購入しますと、上位バージョンで機能「Premium Antispam」機能が評価として 30 日間利用可能です。30 日経過後の対応は下記 FAQ をご確認ください。

FAQ「Premium Antispam と IMail Anti-Virus CYREN 評価について」

<https://secure.okbiz.okwave.jp/cybernet/faq/show/1362>

「Premium Antispam」機能をインストールしない事も可能です。

【その他】

弊社 IMail Server 製品ページと「テクさぼ」にも情報を掲載しておりますので、こちらも併せてご確認ください。

IMail サーバーの情報ページ

<http://www.cybernet.co.jp/imail/>

テクさぼ

<https://secure.okbiz.okwave.jp/cybernet/>

ログインアカウントはご購入時にお渡ししている「ライセンス確認書」をご参照ください。

1-1: Windows Server での事前設定

IMail Server をインストールする際、事前に下記 3 点の設定が必要です。

- 1, Internet Information Service 7.0 / 8.0 / 10(以下 IIS)の設定*1
- 2, Microsoft .Net Framework 4.0 のインストール又は Microsoft .Net Framework 4.5 の有効化 *2
- 3, Microsoft .Net Framework 3.5 の有効化 *3

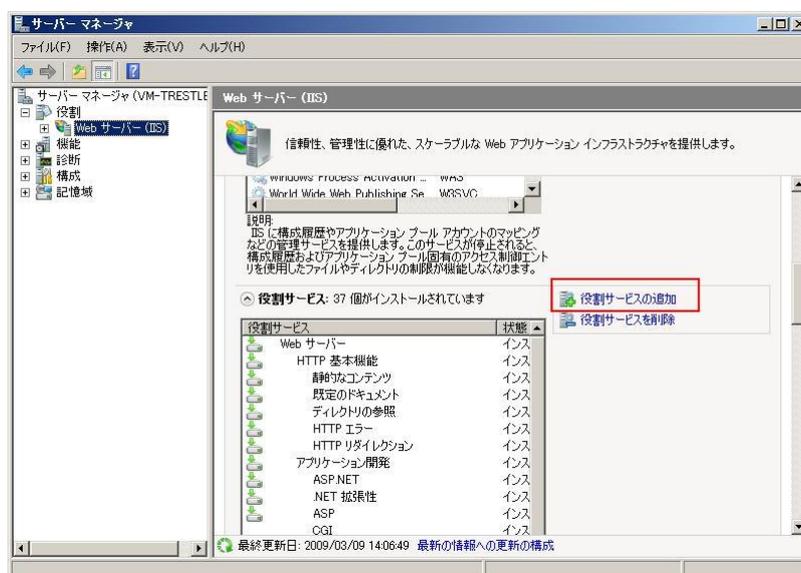
*1 Windows Server 2008 では IIS7、Windows Server 2012 では IIS8、Windows Server 2016 では IIS10 となります。

*2 **Windows Server 2008 では Microsoft .Net Framework 4.0 又は Microsoft .Net Framework 4.5 をインストール、Windows Server 2012 では Microsoft .Net Framework 4.5 を有効化、Windows Server 2016 では Microsoft .Net Framework 4.6 を有効化**します。Windows Server 2012/ Windows Server 2016 での Microsoft .Net Framework 4.0 のインストールは不要です。

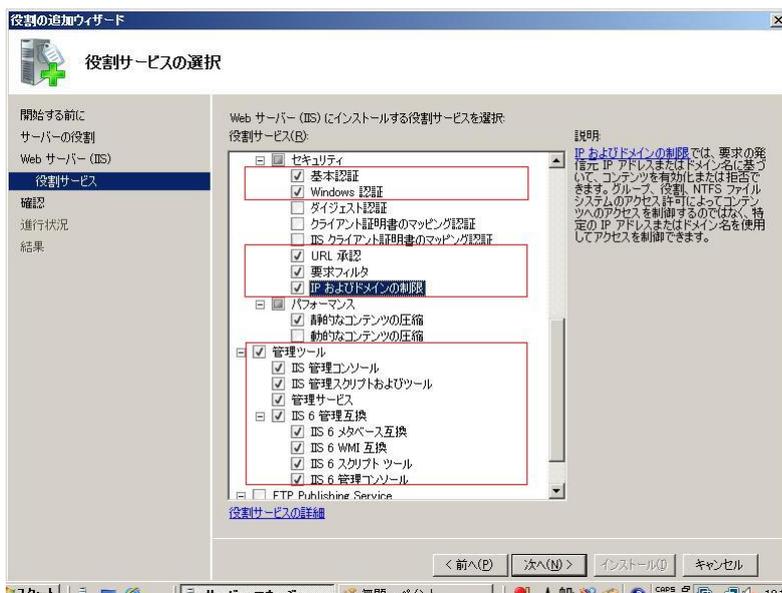
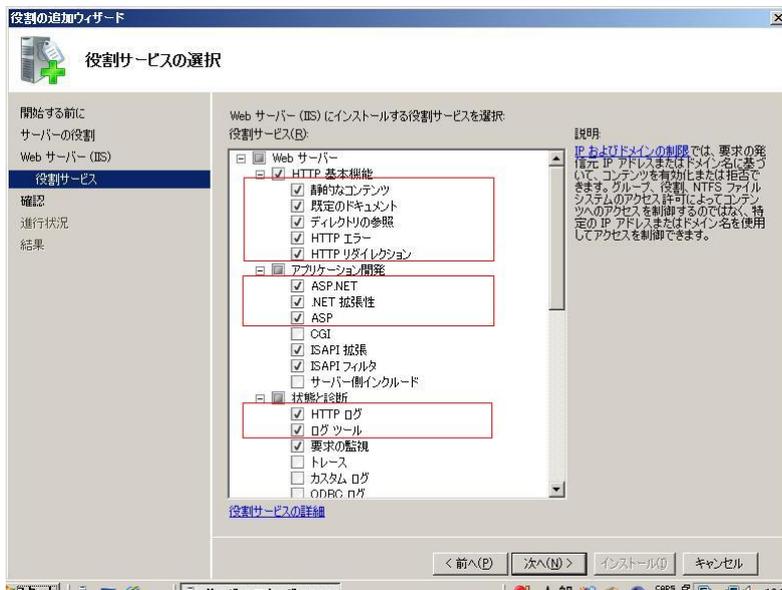
*3 IMail Server のインストーラーより SQL Express をインストールする場合に必須となります。利用しない場合は不要です。

Windows Server 2008/2008R2 の IIS 設定方法

- 1) スタート - 管理ツール - サーバー マネージャを選択します。
「役割サービスの追加」をクリックします

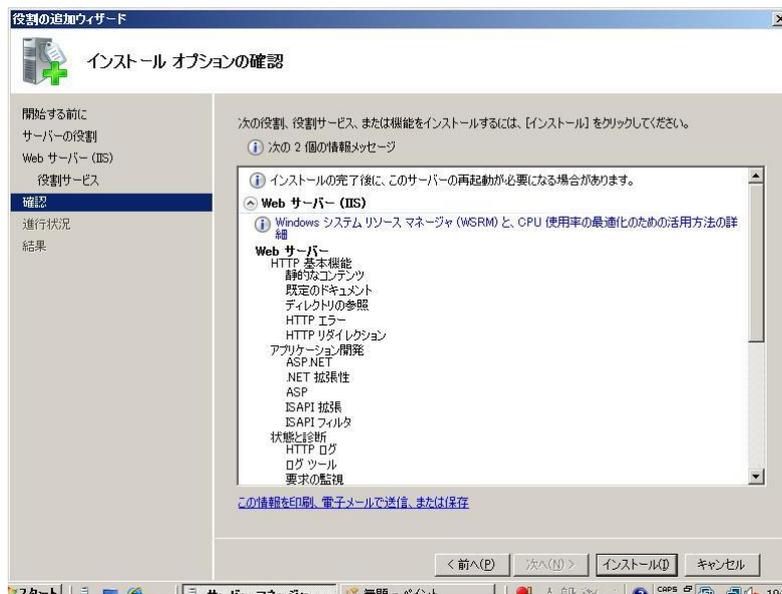


- 2) 「役割サービスの選択」画面にて赤枠で囲っている役割サービスをチェックします。
- ※IMail Server をインストールする為に必要最小限の役割サービスを選択しております。
他の役割サービスを追加しても構いません。

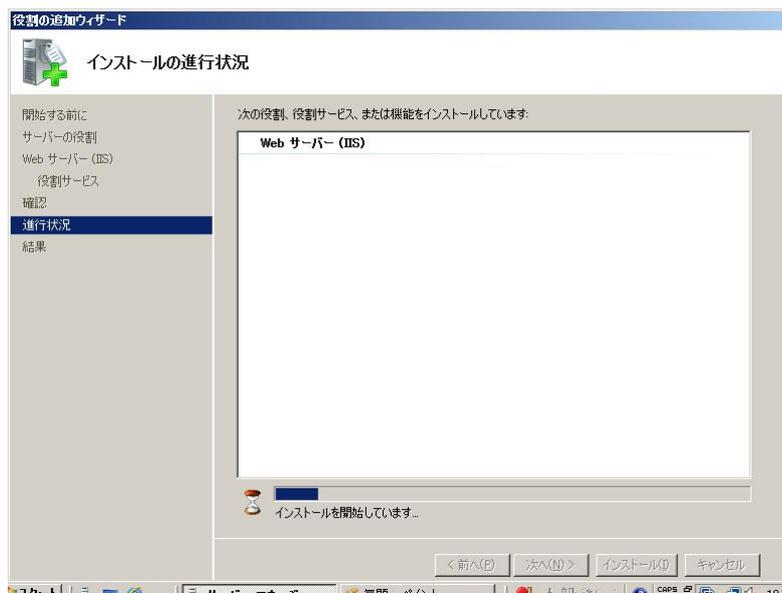


選択後、画面右下の【次へ(N)】ボタンを押して、次の画面に進みます。

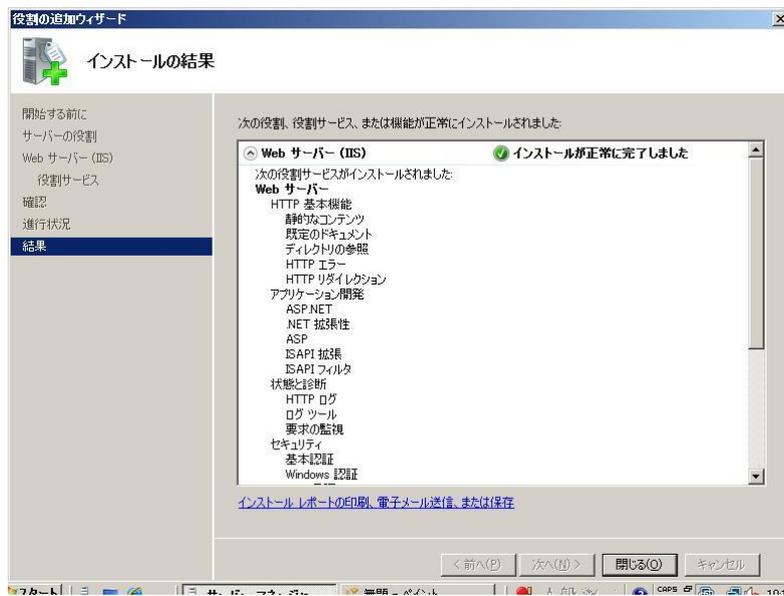
- 3) 「インストールオプションの確認」画面が表示されますので、【インストール(I)】ボタンを押して、次の画面に進みます。



- 4) インストールが開始されます。



- 5) 「インストールの結果」画面に「インストールが正常に完了しました」のメッセージが表示されていることを確認し、【閉じる(O)】ボタンを押して、本画面を終了します。

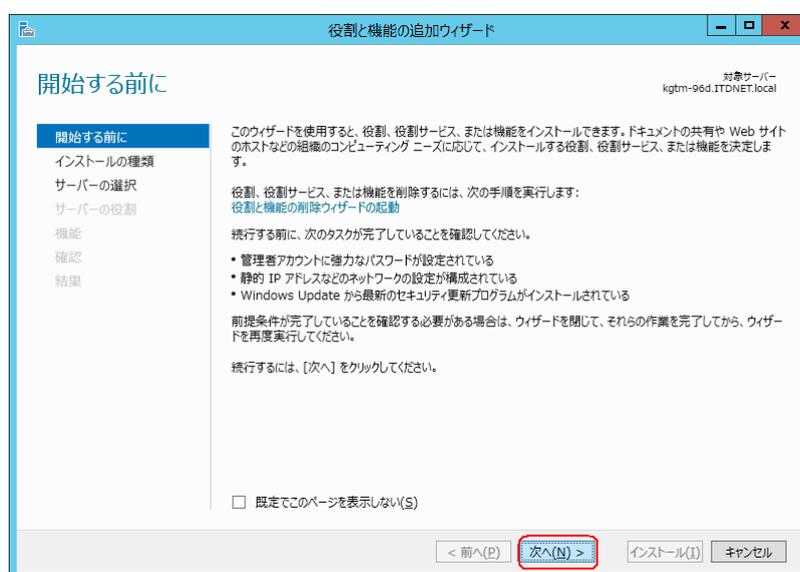


Windows Server 2012/2012R2、Windows Server 2016 の IIS 設定方法

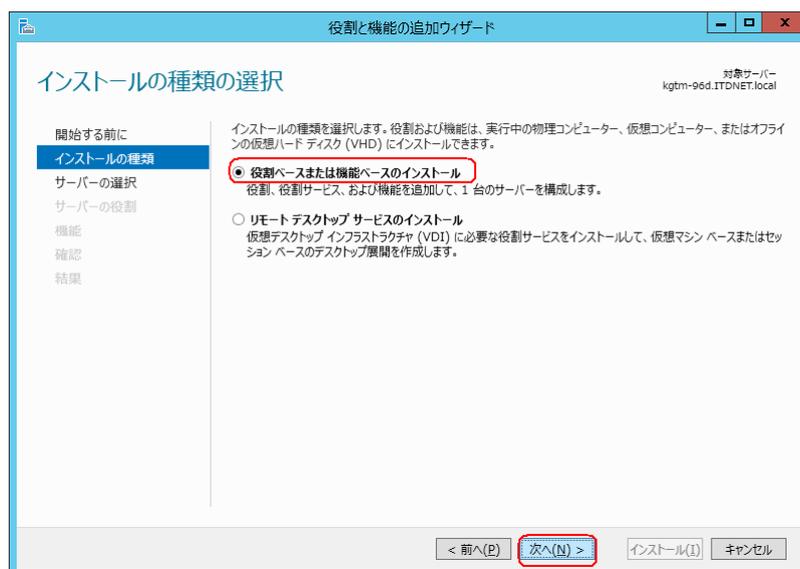
- 1) 「役割と機能の追加」を選択します。



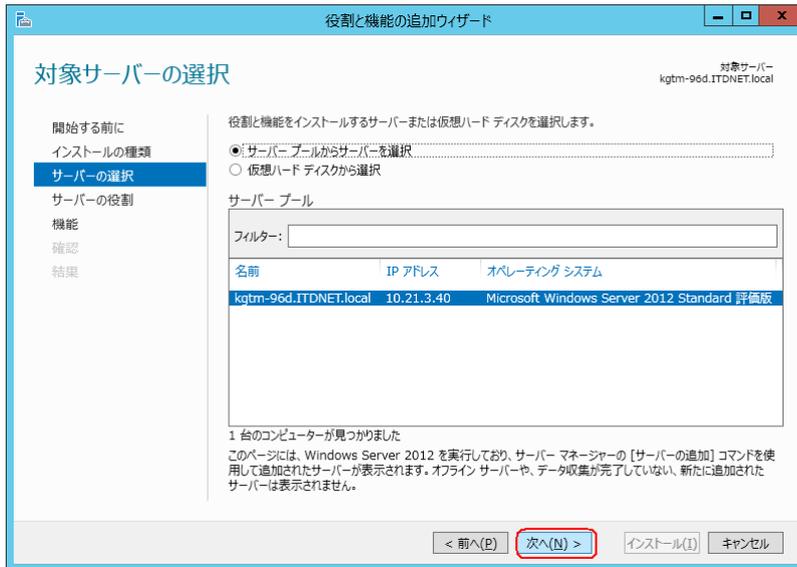
- 2) 【次へ(N)】ボタンを押します。



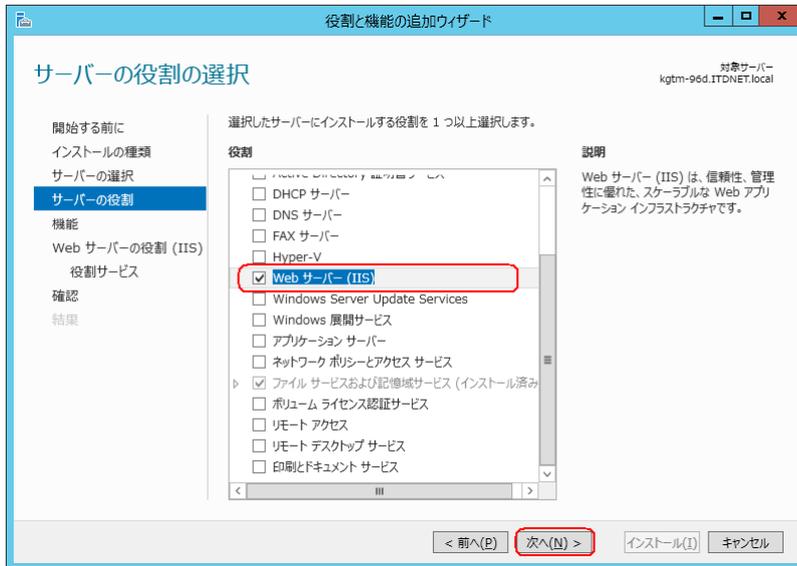
- 3) 「役割ベースまたは機能ベースのインストール」を選択し、【次へ(N)】ボタンを押します。



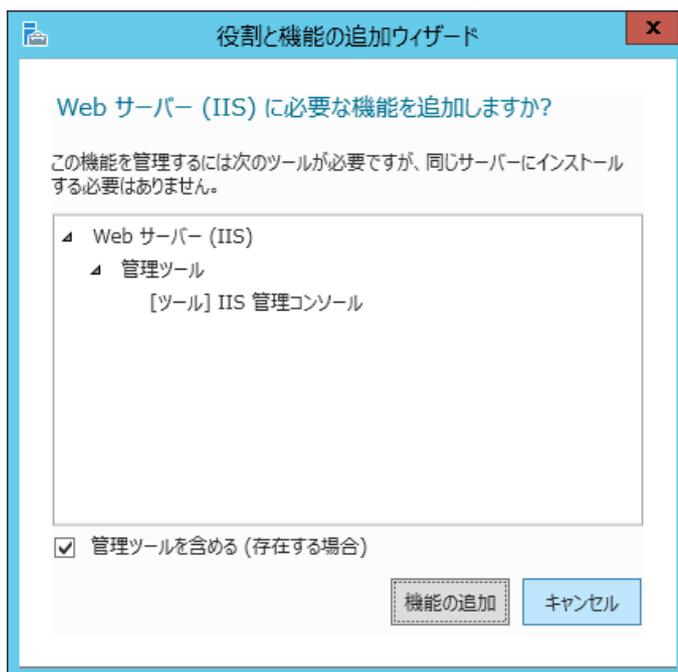
- 4) サーバプールに今回 IMail Server をインストールするサーバーの名前が表記されている事を確認し、【次へ(N)】ボタンを押します。



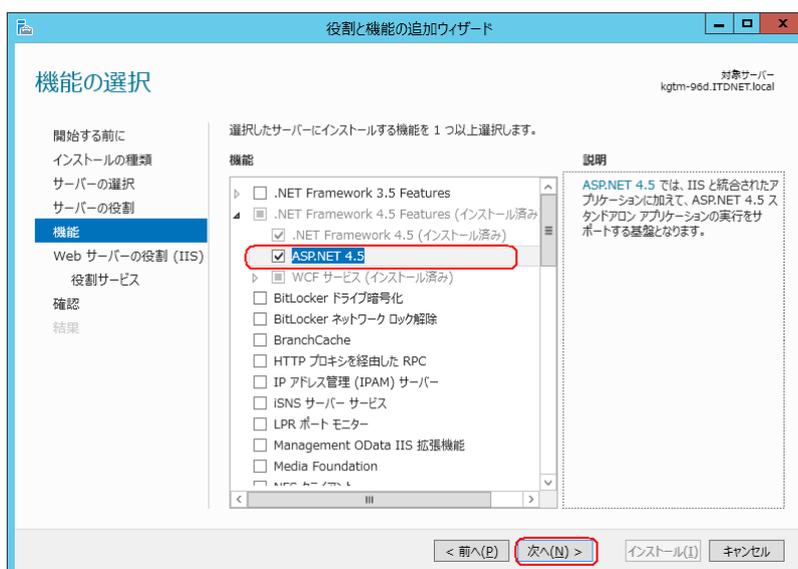
- 5) サーバーの役割より「Web サーバー (IIS)」を選択します。



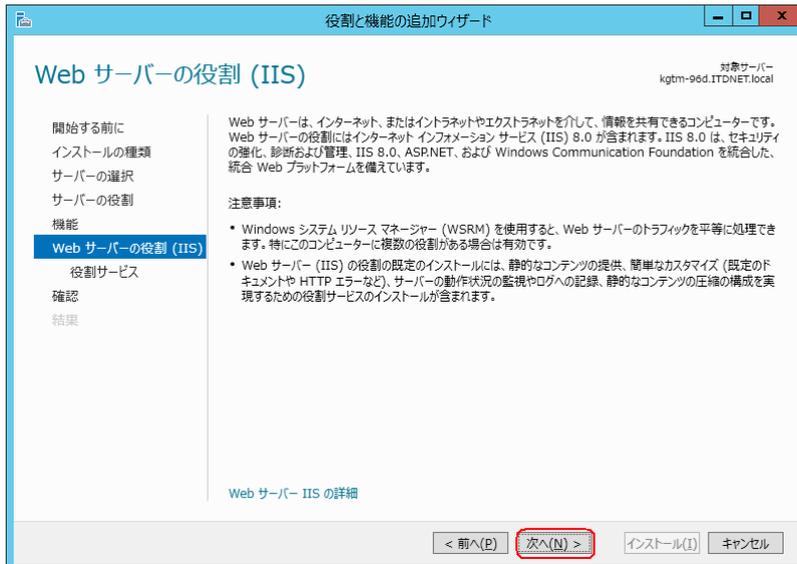
- 6) 先の 5)で「Web サーバー (IIS)」を選択した際に、下記画面が表示された場合、【機能の追加】をクリックします。5)の画面に戻りますので【次へ(N)】ボタンを押します。



- 7) 「.NET Framework 4.x Features」の下にある「ASP.NET 4.x」を選択し、【次へ(N)】ボタンを押します。(下記は、Windows Server 2012R2 の例です。)

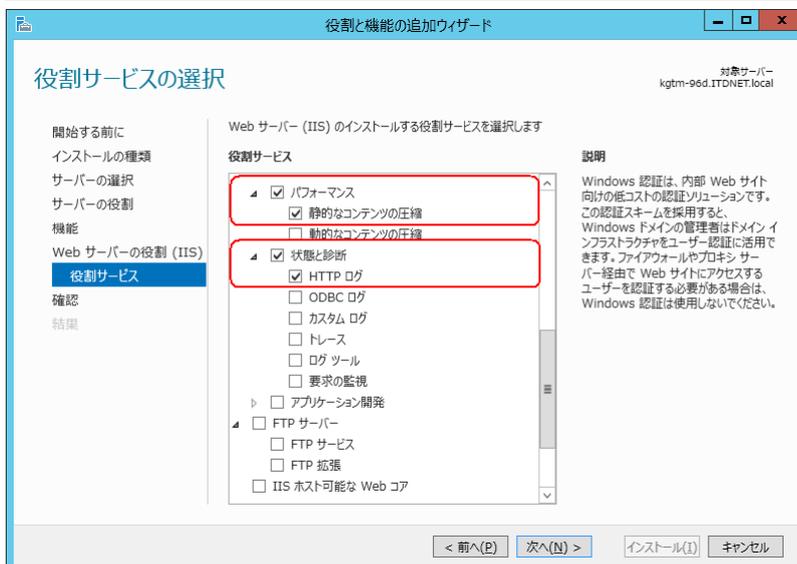
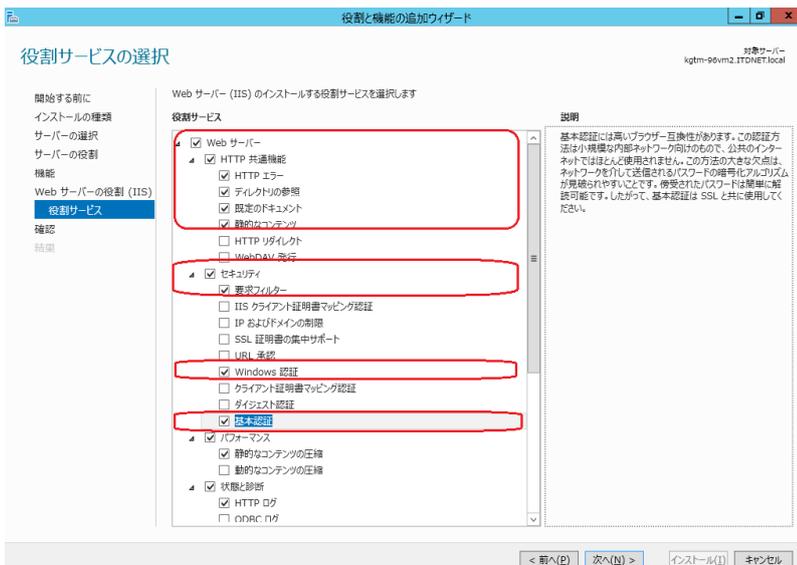


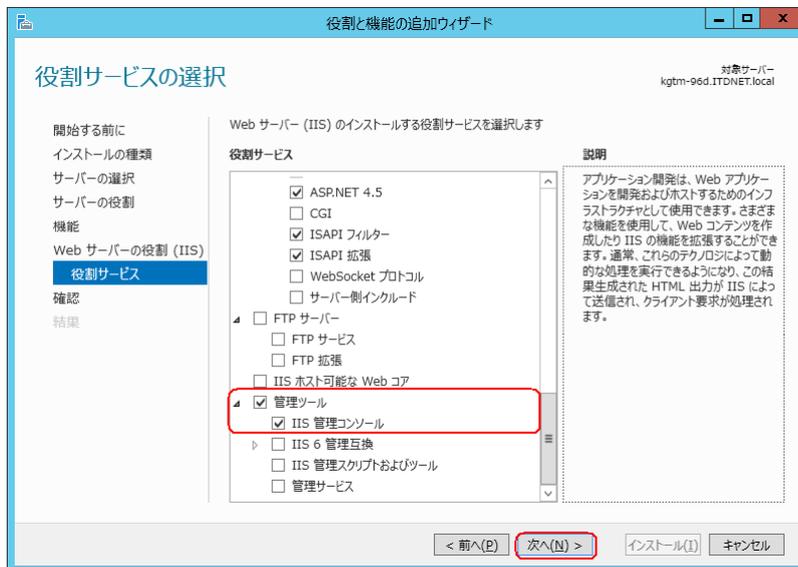
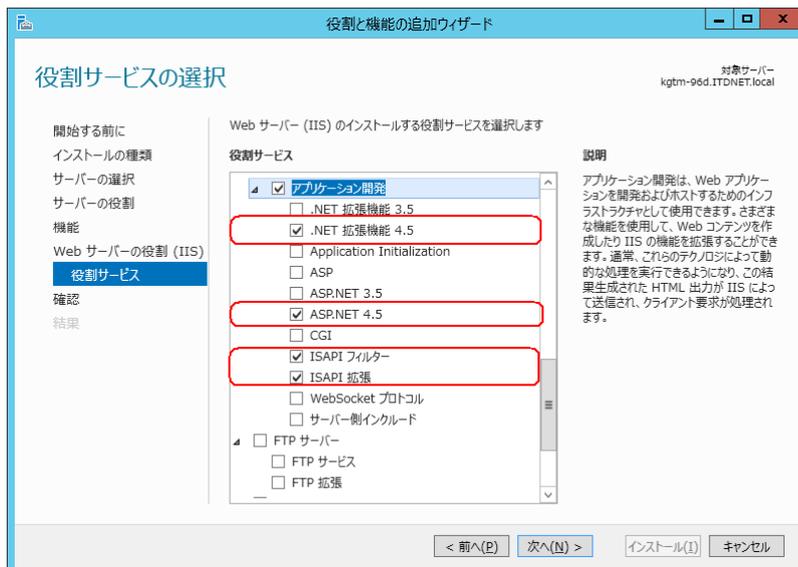
8) 【次へ(N)】ボタンを押します。



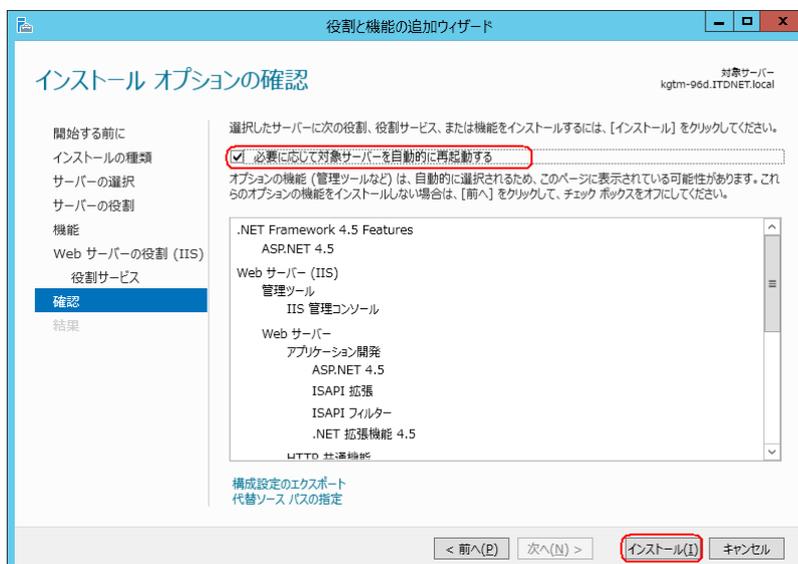
9) 赤枠で囲まれた項目を選択し、【次へ(N)】ボタンを押します。

※IMail Server インストールに必要な最低限な項目のみ選択しています。その他の項目を選択されても問題ありません。

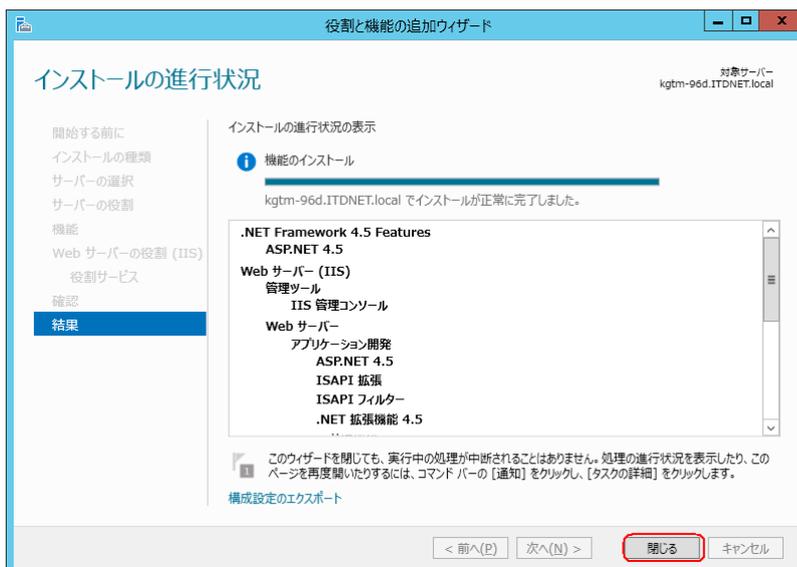




10) 「必要に応じて対象サーバーを自動的に再起動する」を選択し、【インストール(I)】ボタンを押します。



11) インストール終了後、【閉じる】ボタンを押し、本画面を終了します。



【注意】

IIS をインストールした際に Microsoft SMTP Service がインストールされる場合があります。この場合 IMail Server の SMTP ポートとバッティングし、IMail Server が正しく動作しない原因となります。インストールされた場合、Windows のサービスから Microsoft SMTP Service を停止し、“スタートアップの種類”を”無効”にしてください。

《 Tips 》

その他 Windows Server 上で必要な設定、推奨の設定は下記の通りです。

(1) .Net Framework 3.5 の有効化及び Telnet クライアントの有効化



Windows Server 2008 で .Net Framework 3.5 を有効にする場合、「機能の選択」より選択します。Windows Server 2012 では「.NET Framework 3.5 Features」となります。

(2) Telnet クライアントの有効化

トラブルシューティング用に Telnet クライアントを有効にしておくことをおすすめします。

サーバーマネージャの「機能の選択」より「Telnet クライアント」を有効化します。

(3) Windows Firewall の無効化



IMail Server での検証時、Firewall 機能により各クライアントからの接続が遮断される場合があります。そのような場合の無用な工数を削減する為、IMail Server インストール前及びテスト中は無効に設定し、IMail Server の検証を全て終えてから設定される事をお勧めします。

1-2:インストールに関して

IMail Server ではインストールの際にプログラムキーによる「アクティベーション」が必要になります。

IMail Server を新規ご購入されたお客様は「ライセンス登録確認書」に記載のあるプログラムキーを利用してください。

サービスアグリーメント(保守契約)を継続し、IMail Server v10 及び IMail Server v11 を利用しているお客様は、既にお持ちのプログラムキーを利用してください。IMail Server v10 以降ではプログラムキーが共通となっております。

2:インストーラーの起動について

下記 Web サイト「テクさぼ」よりログイン後、「FAQ/お問い合わせ」>「IMail 製品」>「ダウンロード」>「製品モジュール」>「IMail Server v12.5.6 モジュールダウンロード」に進んでください。

テクさぼ

<https://secure.okbiz.okwave.jp/cybernet/>

ログインアカウントはご購入時にお渡ししている「ライセンス確認書」をご参照ください。

インストールを開始するにはダウンロードした exe ファイルを Windows の管理者アカウントで実行します。インストーラーが起動したら次章へ進んでください。

3:アクティベーション

IMail Server v12では新規インストール又はアップグレードの前に製品のアクティベーションが必要です。このアクティベーションには「プログラムキー」が必要となります。IMail Server v12を新規にご購入されたお客様は「ライセンス登録確認書」に記載されたプログラムキーをご利用ください。IMail Server v10 / IMail Server v11/ IMail Server v12.x をご利用のお客様は既にお持ちのプログラムキーをご用意ください。

インストーラー画面の【Next】ボタンをクリックして次に進みます。



※ Windows Server 2012/2016 にインストールの場合、ここで”Installration Warnings” の画面が表示されますが、SQL Server の利用を推奨する内容ですのでそのまま【Next】ボタンで次へ進めてください。

使用許諾の内容を確認して「I accept the terms in the license agreement」を選択し、【Next】ボタンをクリックして次に進みます。



3-1:インターネットにアクセスできる環境の場合

インターネットにアクセスできる環境では Online アクティベーションが可能です。

- 1) 「Serial Number」にプログラムキーを入力し【Activate】ボタンを押して、次の画面に進みます。

《注意》

IMail Server のアクティベーションを行うプログラムキーは**半角英数字『23桁』**です。
入力したプログラムキーの桁数が正しいかを再度ご確認ください。

IMail Server - InstallShield Wizard

Activation / Deactivation
Activate / Deactivate your copy of IMail to enable features

Serial Number:

Summary

License Type:	
IMail:	Licensed: No
Collaboration:	Licensed: No
Instant Messaging:	Licensed: No
Premium AntiSpam:	Licensed: No
CYREN Anti-Virus:	Licensed: No
Virus Outbreak Detection:	Licensed: No
Exchange ActiveSync:	Licensed: No

Offline Activation

InstallShield

Activate Deactivate < Back Next > Cancel

- 2) アクティベーションが正常処理されますと下記のようにライセンスにて有効化された項目が表示されます。【Next】ボタンを押して、次の画面に進みます。

IMail Server - InstallShield Wizard

Activation / Deactivation
Activate / Deactivate your copy of IMail to enable features

Serial Number:

Summary

License Type:	Perpetual	
IMail:	Licensed: Yes	User Count: Unlimited
Collaboration:	Licensed: Yes	
Instant Messaging:	Licensed: Yes	
Premium AntiSpam:	Licensed: Yes	Days Left: 365
CYREN Anti-Virus:	Licensed: Yes	Days Left: 365
Virus Outbreak Detection:	Licensed: Yes	Days Left: 365
Exchange ActiveSync:	Licensed: No	

Offline Activation

InstallShield

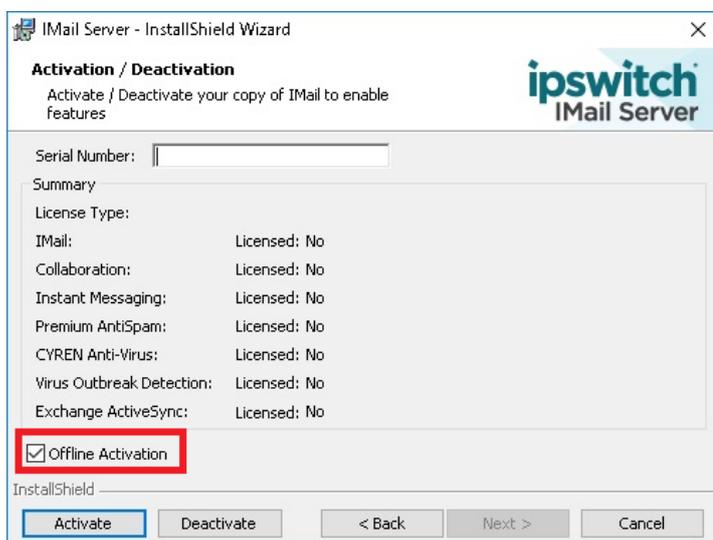
Activate Deactivate < Back Next > Cancel

アクティベーション終了後は、「4:新規インストール」に進みます。

3-2:インターネットにアクセスできない環境の場合

インターネットにアクセスできない環境でアクティベーションを行なう必要がある場合、Offline アクティベーションを実施します。

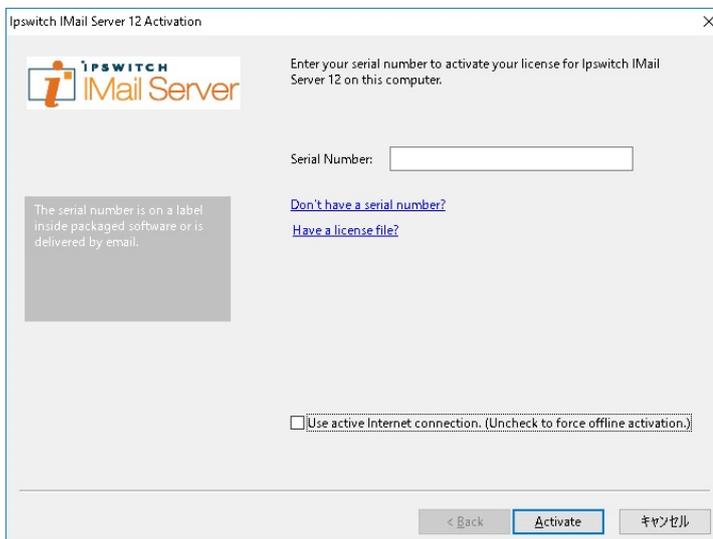
- 1) 「Offline Activation」を選択して、【Activate】ボタンをクリックします。



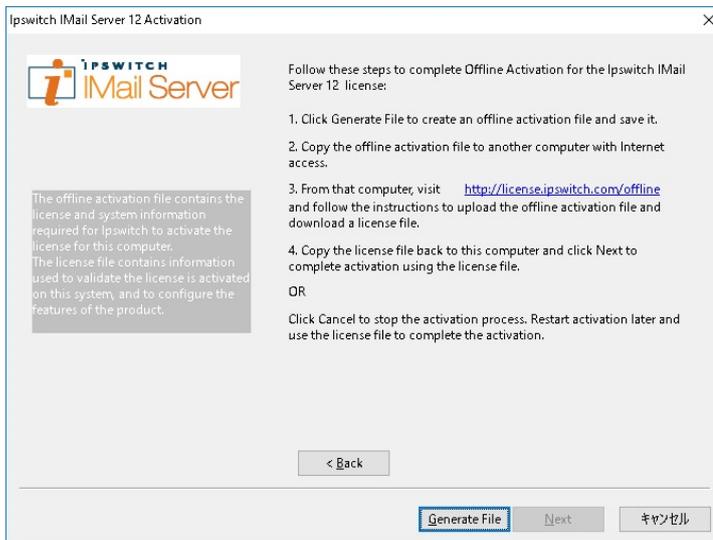
- 2) 「Serial Number」にプログラムキーを入力し「Use Action Internet connection」のチェックを外した状態で【Activate】ボタンをクリックします。

《注意》

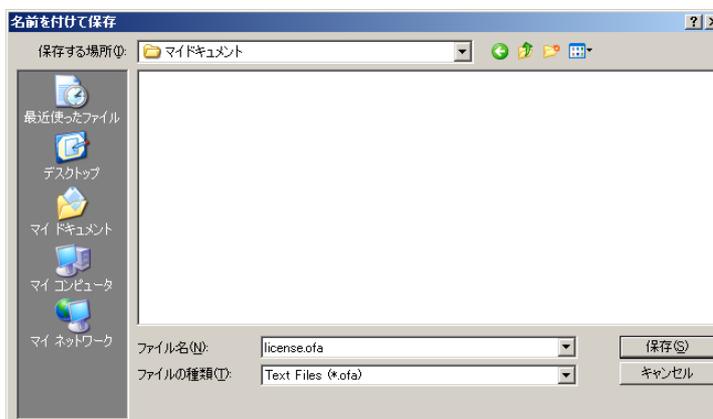
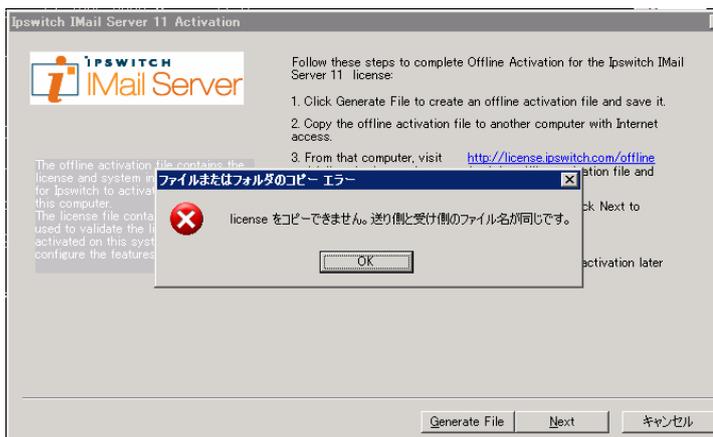
IMail Server のアクティベーションを行うプログラムキーは**半角英数字『23桁』**です。
入力したプログラムキーの桁数が正しいかを再度ご確認ください。



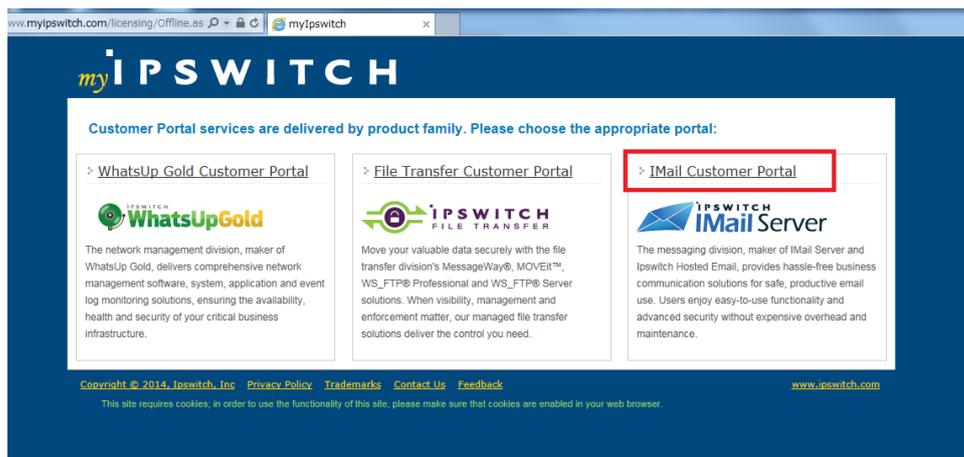
- 3) 【Generate File】ボタンを押して、ファイル「license.ofa」をローカル上の任意のディレクトリに保存します。



- 4) 【Generate File】ボタンを押した際に下記のようなエラーが表示される場合がありますが、任意のディレクトリに「license.ofa」を保存してください。取得した「license.ofa」をインターネットにアクセス可能な別の PC へコピーします。



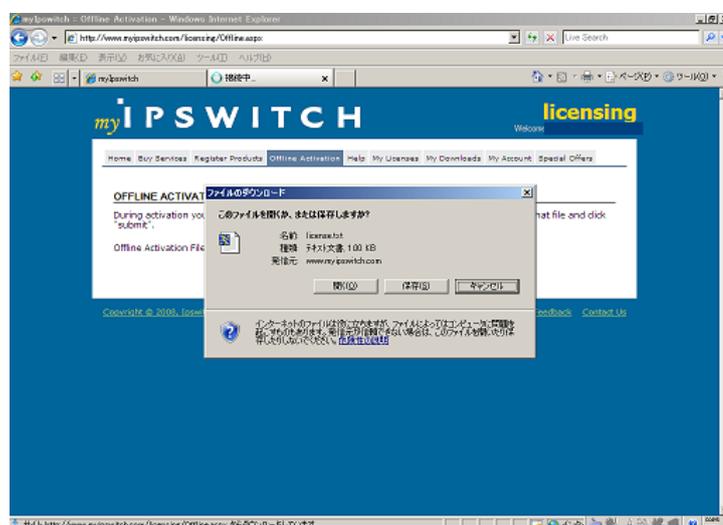
- 5) 別の PC などから Web ブラウザで指定されたハイパーリンク <http://license.ipswitch.com/offline> にアクセスし、「IMail Customer Portal」をクリックします。



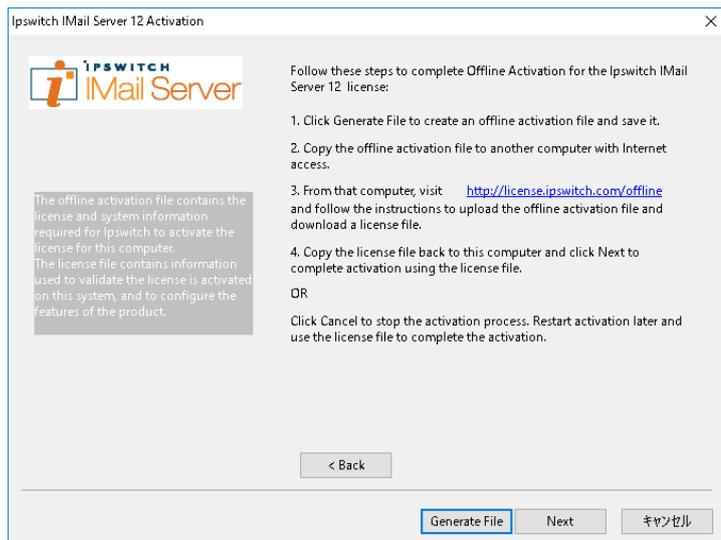
- 6) 【参照】ボタンを押して、保存した「license.ofa」を選択します。



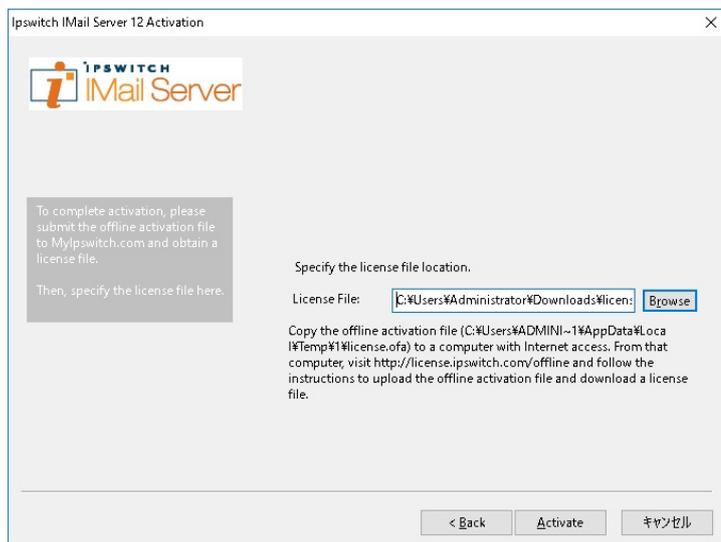
- 7) 生成された「license.txt」をローカル上の任意のディレクトリに保存します。このファイルを IMail Server をインストール中のサーバーにコピーします。



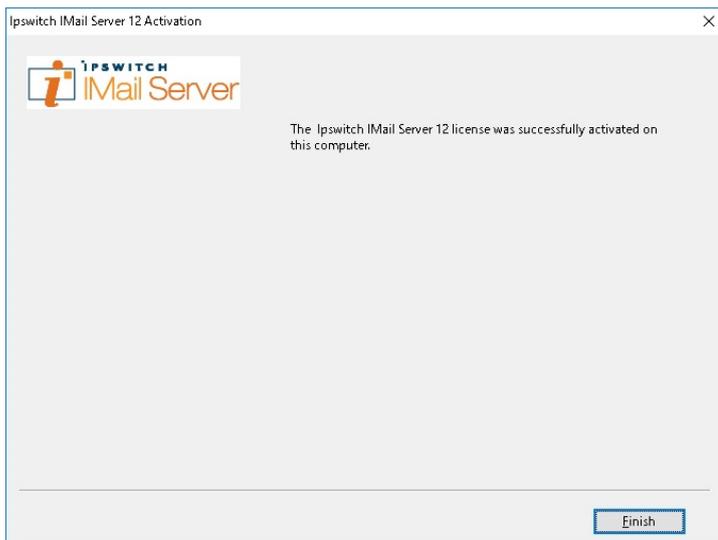
- 8) IMail Server のアクティベーションの画面に戻り、【Next】ボタンを押して、次の画面に進みます。



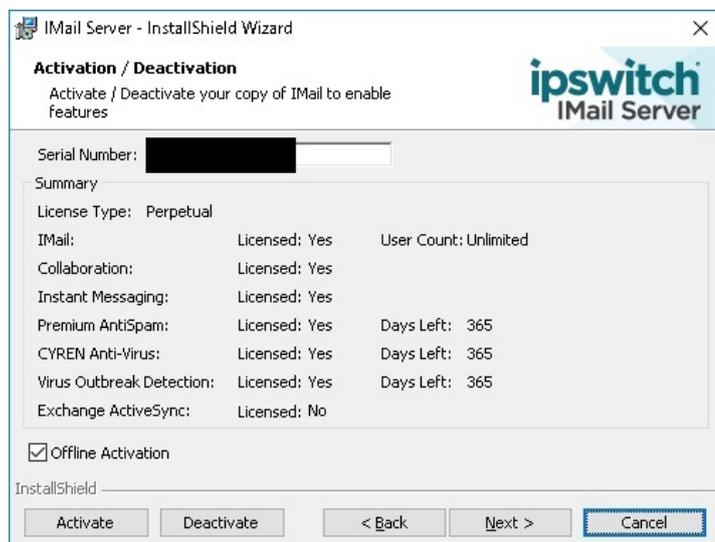
- 9) License File フィールドの【Browse】ボタンを押して、保存した「license.txt」を選択し、【Activate】ボタンを押します。



10) オフラインアクティベーションが成功した画面になります。【完了】ボタンを押します。



11) アクティベーションが正常処理されますと下記のようにライセンス化された項目が表示されます。
【Next】ボタンを押して、次の画面に進みます。



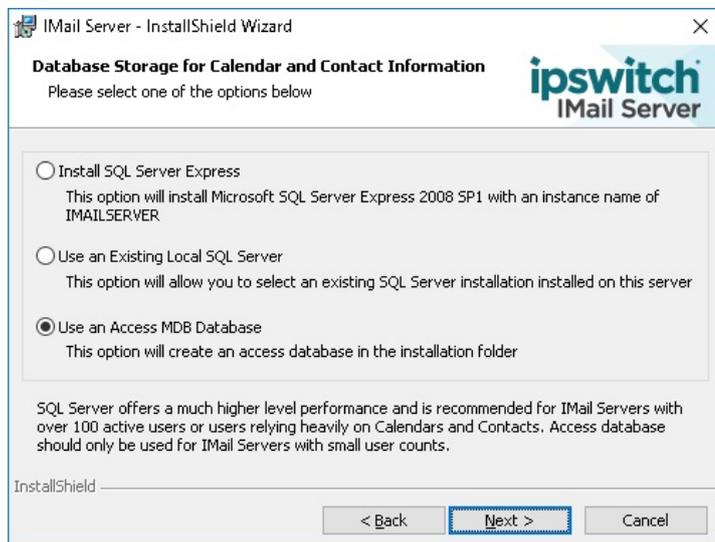
アクティベーション終了後は、「4:新規インストール」に進みます。

4:新規インストール

- 1) アクティベーションが終了しますと本画面が表示されインストールが行われます。
インストールディレクトリを指定して【Next】ボタンを押して次の画面に進みます。パスやディレクトリには全角文字を含める事はできません。
デフォルトでは Program Files¥Ipswitch¥IMail となります。
64bit OS の場合は Program Files(x86)¥Ipswitch¥IMail となります。



- 2) 利用するデータベースを選択します。
選択されたデータベースに **WebMessaging のアドレス帳情報** が登録されます。
この詳細については「1:インストール前に」の【注意】をご参照ください。

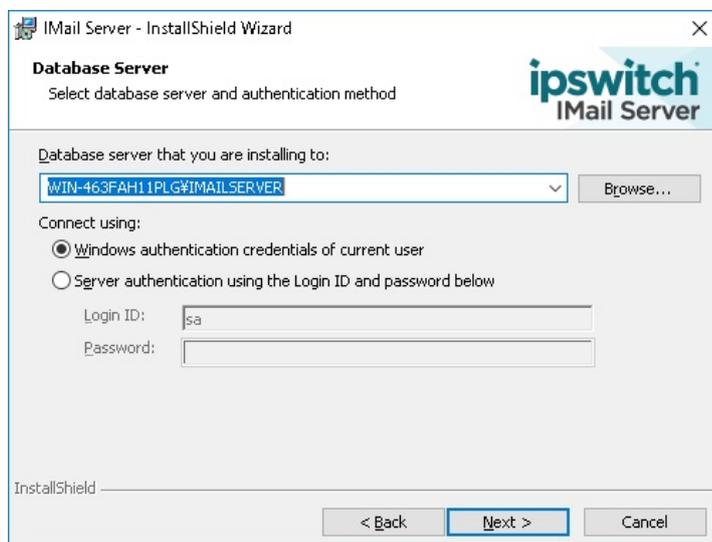


- (1) Install SQL Express
SQL Server 2008 Express をインストールします。
SQL Server Express にはデータベースの最大容量が 4GB の制限があります。
※Windows Server 2012/ Windows Server 2016 では選択しないでください。
- (2) Use an Existing Local SQL Server
既にお持ちの SQL Server を利用します。

(3) Use an Access MDB Database

mdb 形式のデータベースを「Ipswitch¥IMail¥Workgroupshare¥data」に設定します。

「Use an Existing Local SQL Server」を選択した場合、下記画面が表示されます。
プルダウンより SQL Server がインストールされているサーバーを選択します。



※ローカルにインストールされた SQL Server Express を利用する場合、
「(local)¥SQLEXPRESS」を選択します。

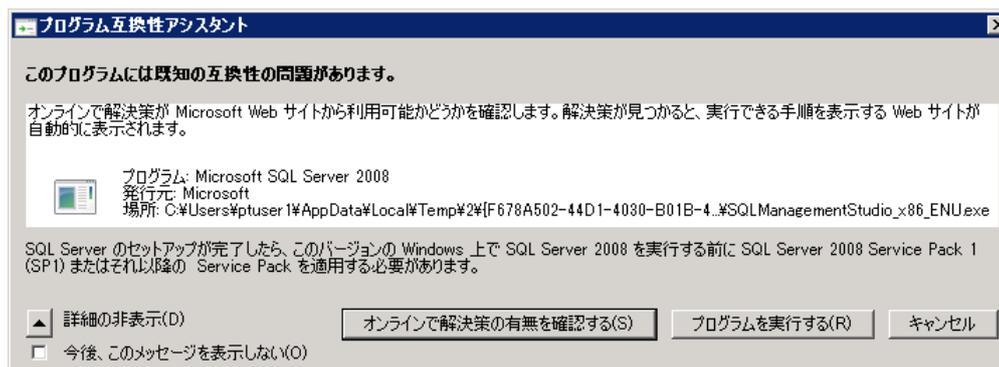
【注意】

※IMail Server のインストーラーでは SQL Express2008 Express がインストールされます。このバージョンは Windows Server 2012/ Windows Server 2016 上でのご利用はサポートされておりません。Windows Server 2012/ Windows Server 2016 で SQL Server を利用される場合、**事前に SQL Server 2010 以降のバージョンをインストールする又は別サーバーで SQL Server(Express 含む)をご用意ください。**そして本項目で「(2) Use an Existing Local SQL Server」を選択してください。

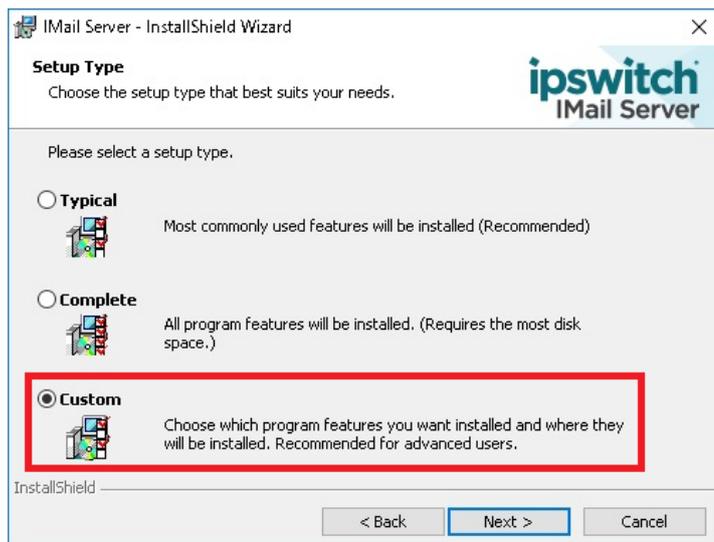
※別サーバーに用意される場合、SQL Server のバージョンは問いません。

※WebMessaging からアドレスが登録できない場合は、設定した SQL Server が IMail Server と同一ドメインに存在するか、又は SQL Server がドメインのメンバでログインをした状態で構築されたかをご確認ください。

※インストール時に下記の画面が表示される場合があります。その場合は【プログラムを実行する(R)】ボタンを押して、インストールを進めてください。



3) インストールする機能を選択します。



(1) Typical

IMail Server v12 の標準構成 (WebMessagng と WebAdmin を含む)がインストールされます。

(2) Complete

IMail Server v12 の全ての機能をインストールします。

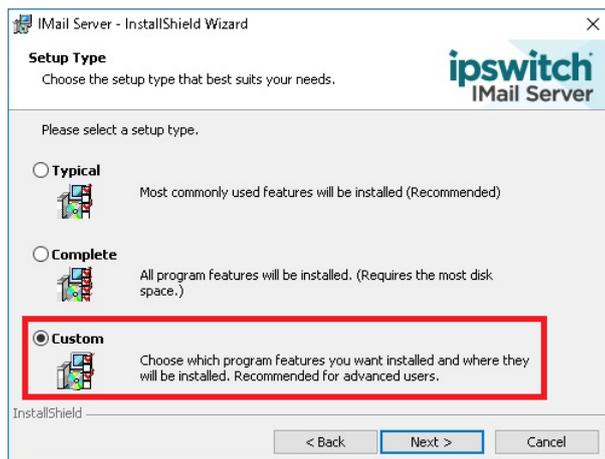
(3) Custom

インストールするコンポーネントを選択できます。

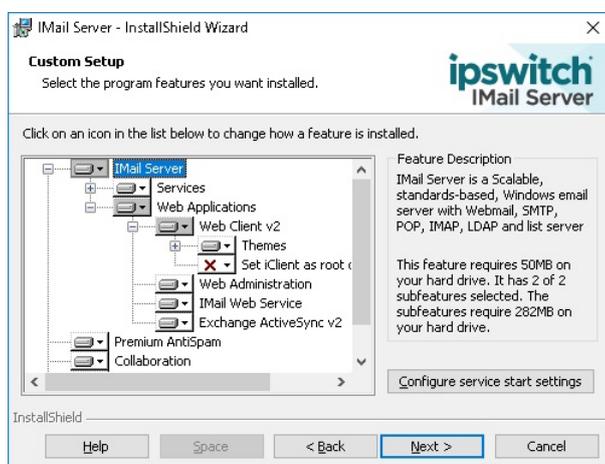
「Custom」を選択し、【Next >】をクリックします。

詳細は次ページ以降をご確認ください。

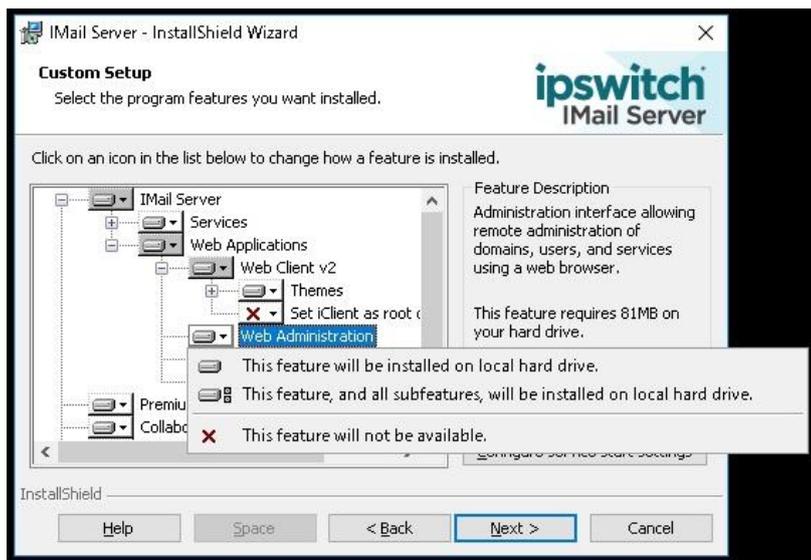
4) 「Custom」を選択した場合、インストールするコンポーネントを選択できます。



「+」をクリックするとその配下の機能が表示されます。



「▼」を選択するとインストール可否が決められます。インストールしない機能は「**× This feature will not be available**」を選択します。



IMail Server v12 でインストールが選択できる機能は以下の通りです。

「+」をクリックし全機能を表示してください。

(1) IMail Server

1, Services

IMail Server で稼働するサービスです。この機能は必須でインストールされます。

2, Web Applications

WebMessaging(Web メール)機能です。

2-1,Web Client v2

a,Themes

WebMessaging 機能で利用する「色」と「イメージ」が格納されます。「Default」は必須ですが、それ以外はインストール可否を選択できます。

※インストール可否による WebMessaging の動作に違いはありません。

b,Set iClient as root

WebMessaging 機能にアクセスする際、通常 http://FQDN/iclient とアクセスしますが、有効した場合 http://FQDN/と「iclient」を指定せずにWebMessaging へアクセス可能です。

2-2,Web Administration

IMail Server v12 の Web 管理画面です。

2-3,Exchange ActiveSync

Microsoft ActiveSync を利用してメールデータをモバイル端末と同期します。

日本では未サポート機能の為「× This feature will not be available」を選択します。

2-4,IMail Web Service

開発元で提供しているメールアーカイブソフトとの連携で利用されるサービスです。

日本では未サポート機能の為「× This feature will not be available」を選択します。

(2) Premium Anti-spam

CYREN 社のエンジンを利用し受信メールのスパム判定を行います。

IMail Premium ライセンスを購入したお客様はインストールします。

IMail Premium ライセンスを購入されていないお客様は「× This feature will not be available」を選択します。

(3) Collaboration

WebMessaging で「共有連絡帳」機能を利用する際に選択します。

※日本国内では「WebMessaging 共有連絡帳」機能のみをサポートしております。

設定方法については別紙「WebMessaging 共有連絡帳作成方法」をご参照ください。

利用しない場合「× This feature will not be available」を選択します。

(4) Instant Messaging

チャット機能です。利用しない場合「× This feature will not be available」を選択します。

(5) IMail Anti-Virus powered by CYREN

CYREN 社製のアンチウイルスソフトです。

IMail Anti-Virus ライセンスを購入されたお客様は本機能を選択します。

購入されていないお客様は「× This feature will not be available」を選択します。

【Configure service start settings】をクリックしますと、IMail Server インストール終了時又は OS 起動時に自動起動する IMail Server のサービスを選択できます。起動させたいサービスをチェックし【OK】をクリックします。

※OS 起動後の自動起動については Windows のサービスより設定する事も可能です。

※IMail SMTP Service と IMail Queue Manager Service はデフォルトで自動起動です。



選択終了後【Next】をクリックします。

- 5) IMail の Web Administration と WebMessaging が IIS 上で利用する Web サイトを選択します。

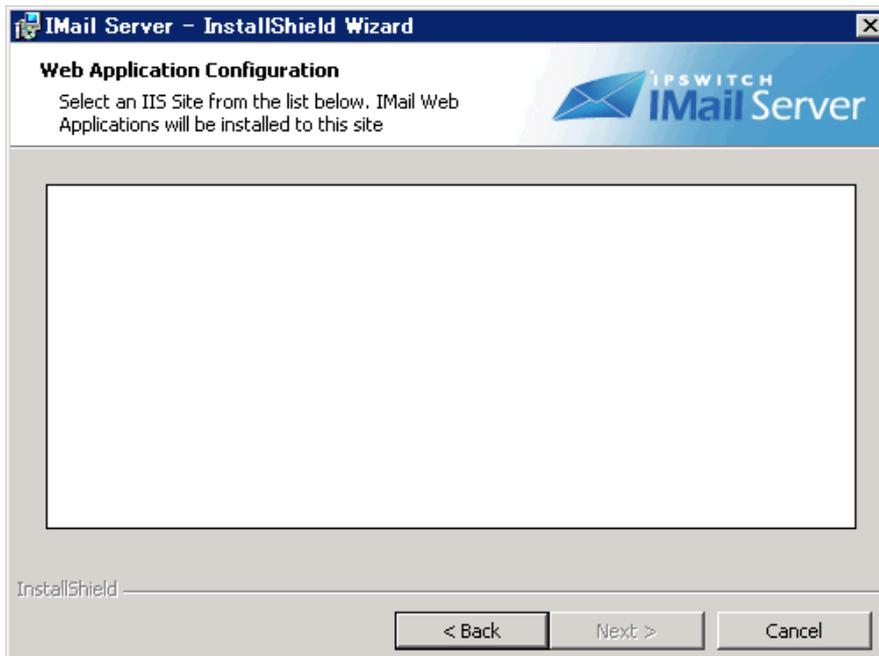
デフォルトは 80 番を利用した「Default Web Site」となります。

別のポート番号で IMail を利用したい場合、IIS 側で事前に Web Site を作成しておくことで、この画面で表示され、選択する事ができます。設定終了後【Next】ボタンを押して進みます。

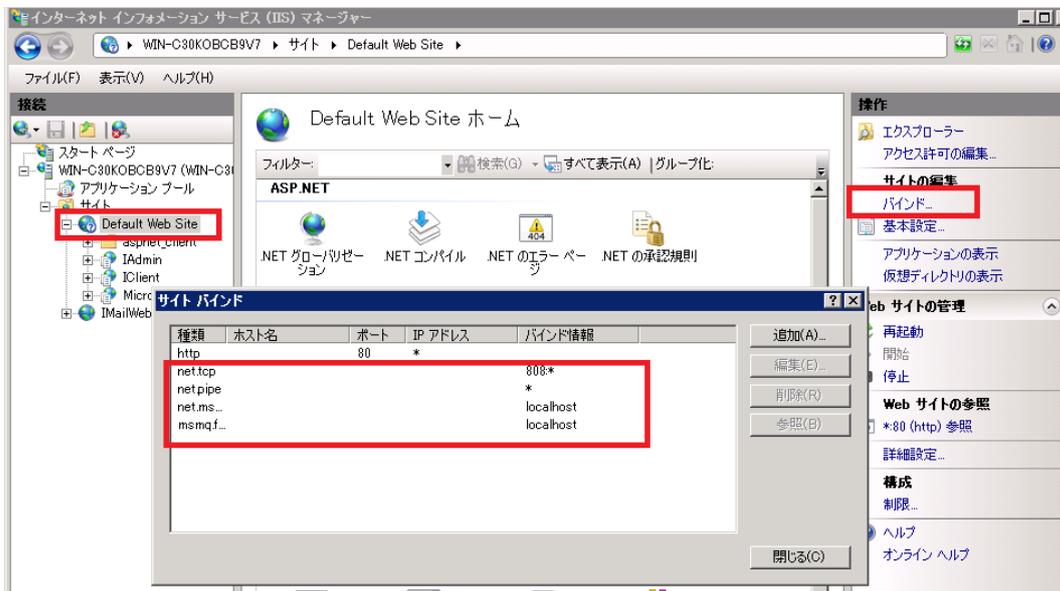


《注意》

ご利用の環境によっては下記のように IIS Site が表示されない場合があります。



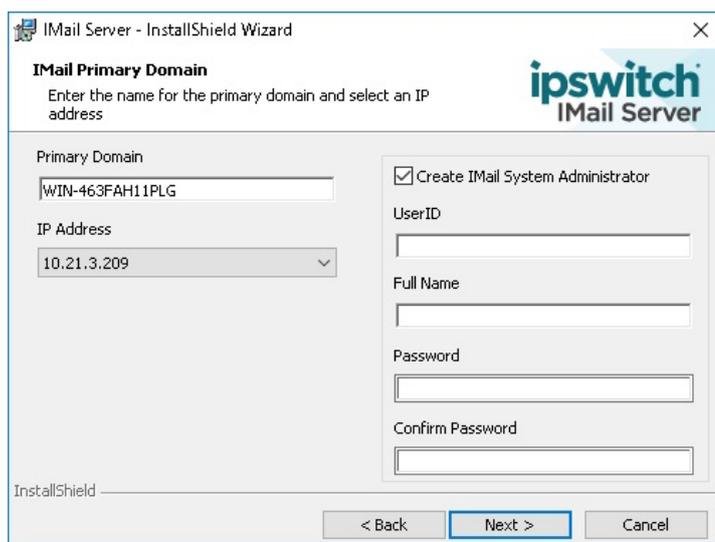
この場合、インストーラーを終了させ、インターネットインフォメーションサービスマネージャ - サイト - IMail を設定しようとしているサイト(デフォルトでは Default Web Site)より「バインド」を選択し、**http 以外のサイトを削除**します。その後再度 IMail インストーラーを起動し、表示されるか確認ください。



- 6) 本画面で Primary Domain を設定します。これは IMail Server における”一次ホスト”です。デフォルトではインストールマシンの”フルコンピューター名”が設定されています。
この”フルコンピューター名”を Primary Domain として利用されるメールアドレスに書き換えていただくことを推奨します。
登録された名称が IMail Server ユーザーの@以降のドメインとして利用されます。
インストールマシンに複数 IP アドレスが割り当てられている場合「IP Address」のプルダウンから選択ができます。
「Create IMail System Administrator」にチェックを入れる事で、インストール終了時に Administrator 権限を持つユーザーを作成する事ができます。これはインストール終了後に管理画面から作成する事も可能です。設定終了後【Next】ボタンを押して進みます。

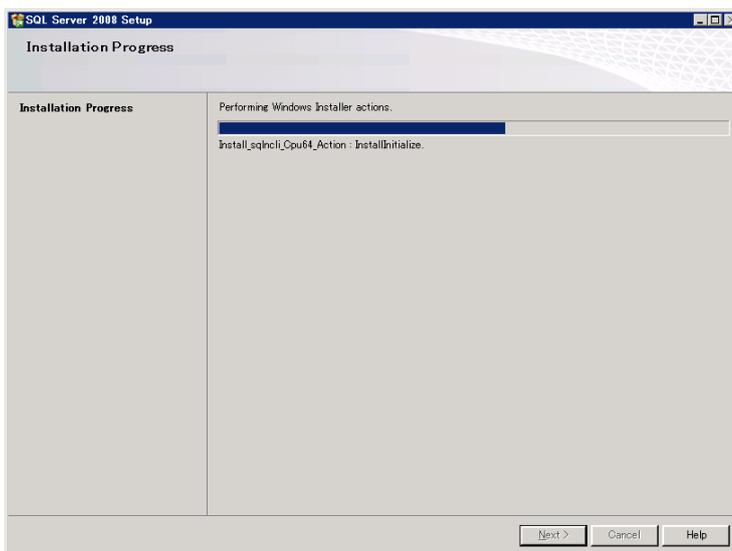
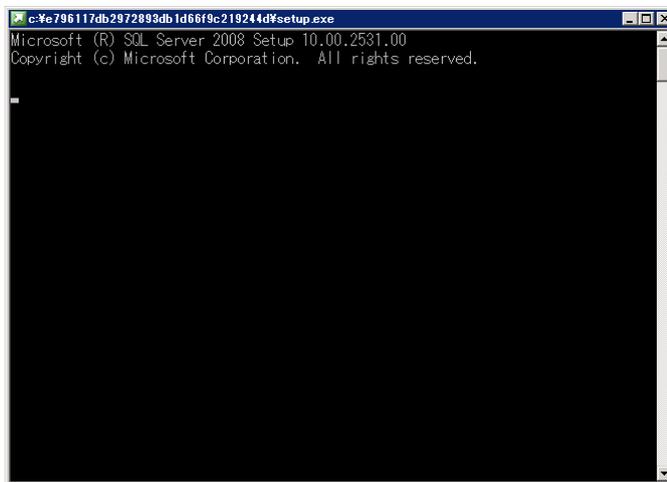


- 7) 【Install】ボタンをクリックしインストールを実行します。





SQL Server Express を選択した場合、下記の DOS 画面が表示され、インストールが進みます。



8) インストールが終了しました。

「Launch IMail Admin」をチェックし【Finish】をクリックすると管理画面が表示されます。

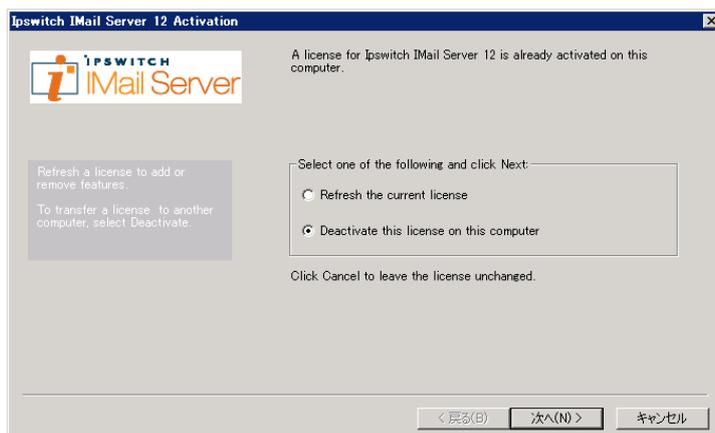


5: ディアクティベーション/評価ライセンスから製品版ライセンスへの切り替え

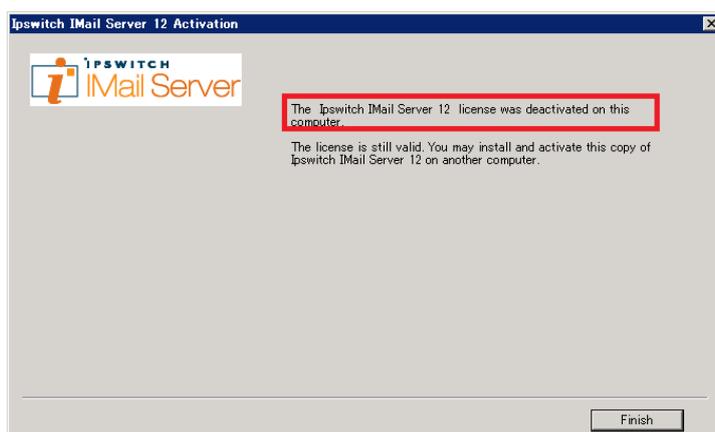
ディアクティベーションはサーバー移行の際に必要な作業となります。評価ライセンスではディアクティベーションは不要です。

1) ディアクティベーション

- (1) スタート – すべてのプログラム – Ipswitch – IMail Server – IMail Server Activation Utility を起動します。
- (2) 「Deactivate this license on this computer」を選択し、【次へ(N)】をクリックします。



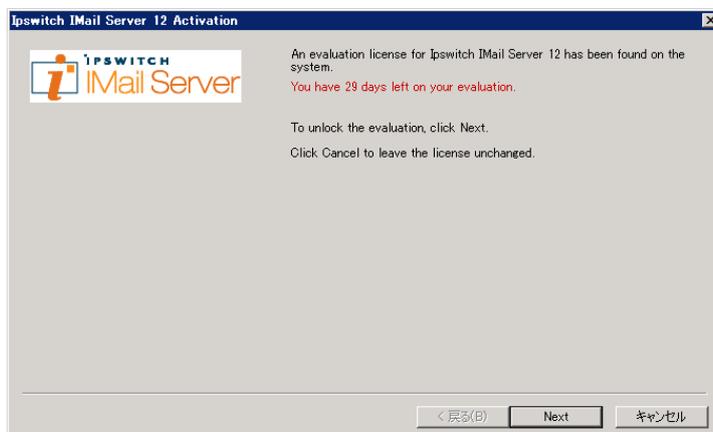
- (3) 下記画面が表示され、ディアクティベーションは終了です。



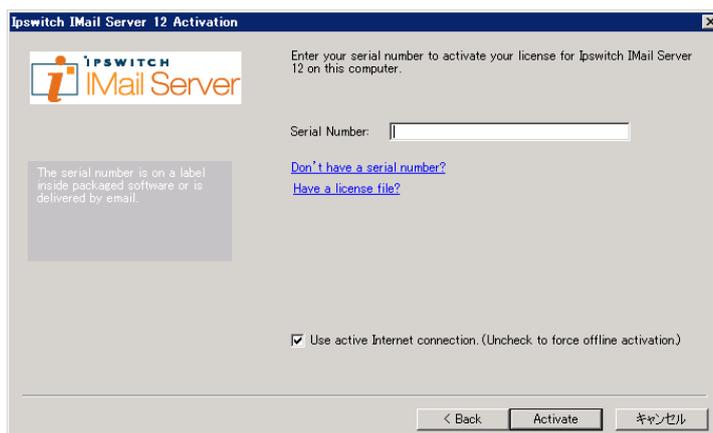
- ディアクティベーションは「製品版プログラムキー」で可能です。評価ライセンスでは行えません。
- IMail Server がインストールされているサーバーが直接インターネットに接続できない環境の場合、お客様でディアクティベーションはできません。サポートセンターで実施する必要があります。「製品版プログラムキー」と「コンピューター名」をサポートにご連絡ください。
- ディアクティベーションすると IMail Queue Manager Service が停止し、メール送受信ができなくなります。

2) 評価ライセンスから製品版プログラムキーへの切り替え

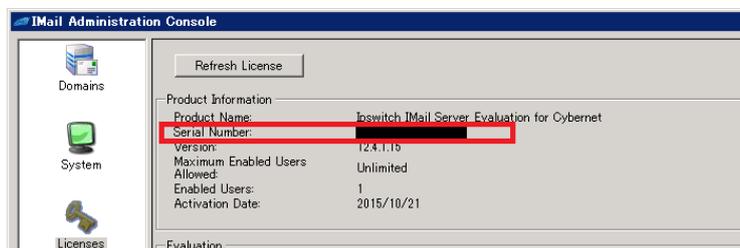
- (1) スタート - すべてのプログラム - Ipswitch - IMail Server - IMail Server Activation Utility を起動します。
- (2) 【Next】をクリックします。



- (3) 「Serial Number」に製品版プログラムキーを入力し【Activate】をクリックします。
製品版プログラムキーは半角英数字で 23 桁です。



- (4) IMail Administration Console - Licenses の「Serial Number」に製品版プログラムキーの 15 桁が表示されている事を確認します。



- 評価ライセンスではディアクティベーションが不要です。
- IMail Server がインストールされているサーバーが直接インターネットに接続できない環境の場合、オフラインアクティベーションの手順で製品版プログラムキーをアクティベーションします。

6:SQL Server オブジェクトの設定

IMail Server のインストール後、SQL Server に対して使用するオブジェクトの設定を行う必要があります。

IMail WebMessaging (Web メール) を使用するにはこの設定が必要です。

※IMail WebMessaging (Web メール) をご利用にならない場合や、IMail Server インストール時にアドレス帳データベースとして Access MDB Database を選択された場合には本章の設定は不要です。

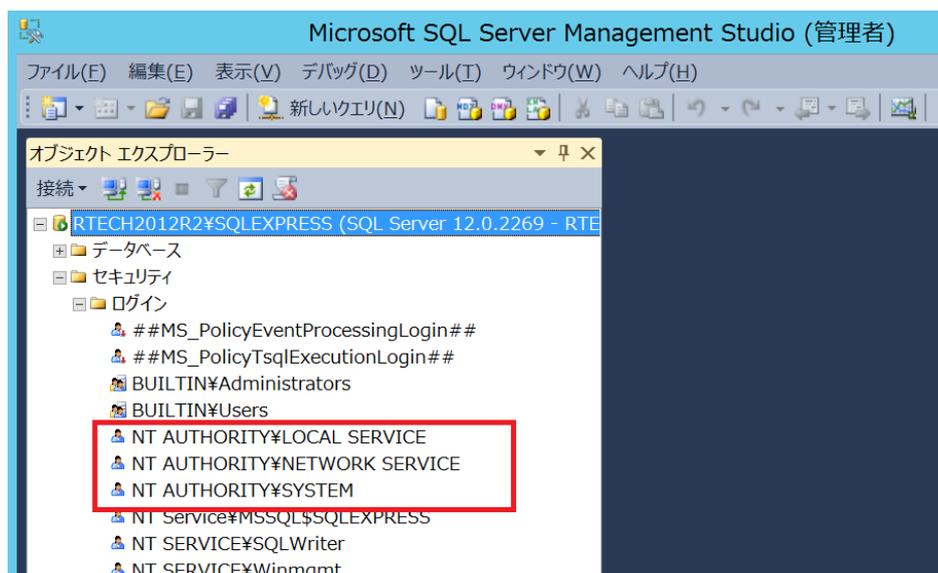
この設定作業は SQL Server Management Studio を使用して行います。インストールされていない場合にはインストールしてから下記手順に従ってください。

- 1) Windows の管理者アカウントで SQL Server Management Studio を起動し、「オブジェクト エクスプローラー」の [セキュリティ] - [ログイン] 以下に下記3つのオブジェクトが存在していることを確認します。

NT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE

NT AUTHORITY¥NETWORK SERVICE

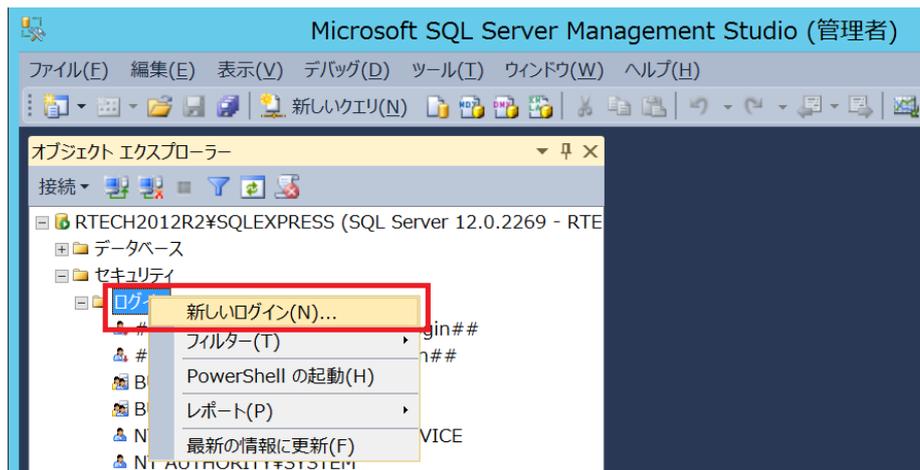
NT AUTHORITY¥SYSTEM



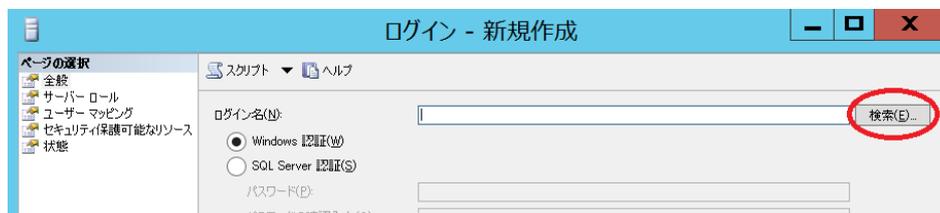
いずれか存在していない場合には、手順 2) ~ 5) に従って、追加します。

3つとも存在している場合には、手順 6) に進みます。

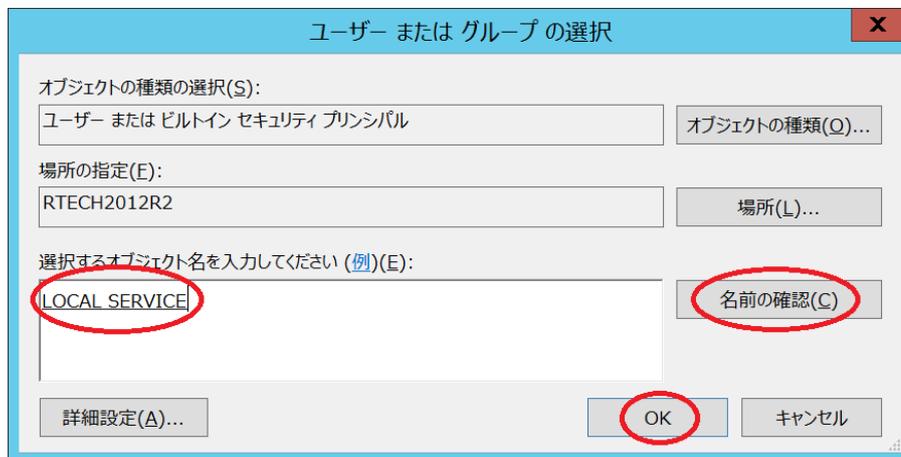
- 2) [セキュリティ] - [ログイン] を右クリックして [新しいログイン(N)...] をクリックします。



- 3) 次の画面の[検索] をクリックします。



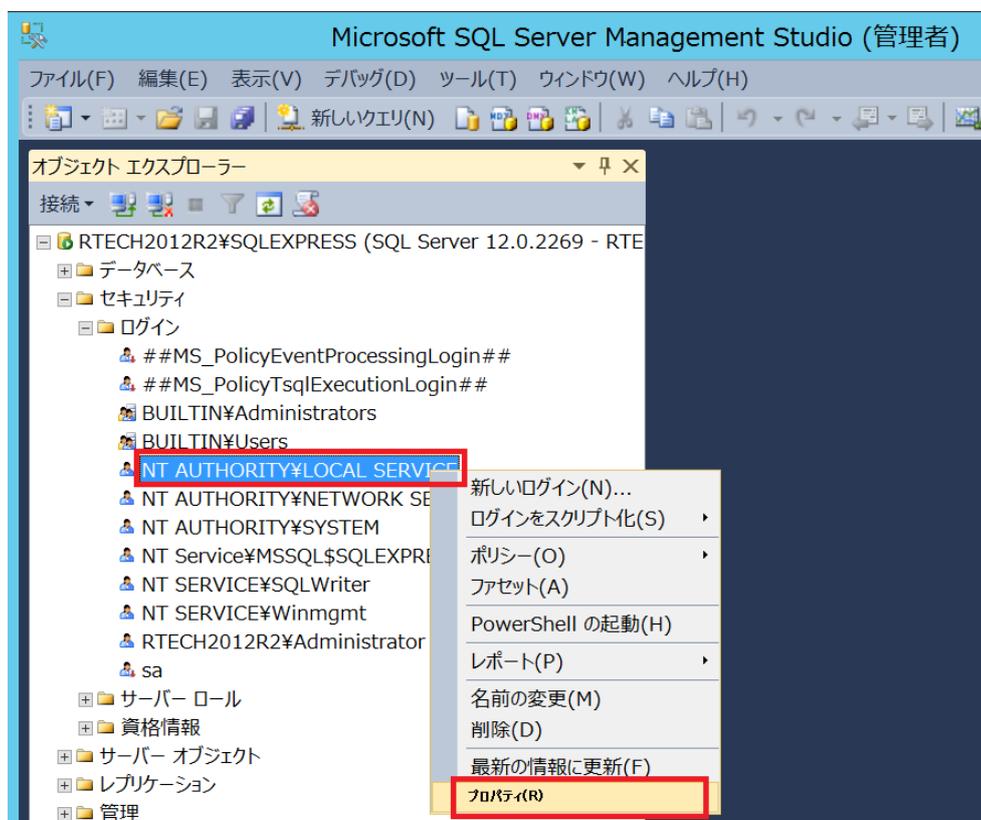
- 4) オブジェクト名を入力して [名前の確認] で確認後、OK をクリックします。
下記は NT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE の場合の入力例です。



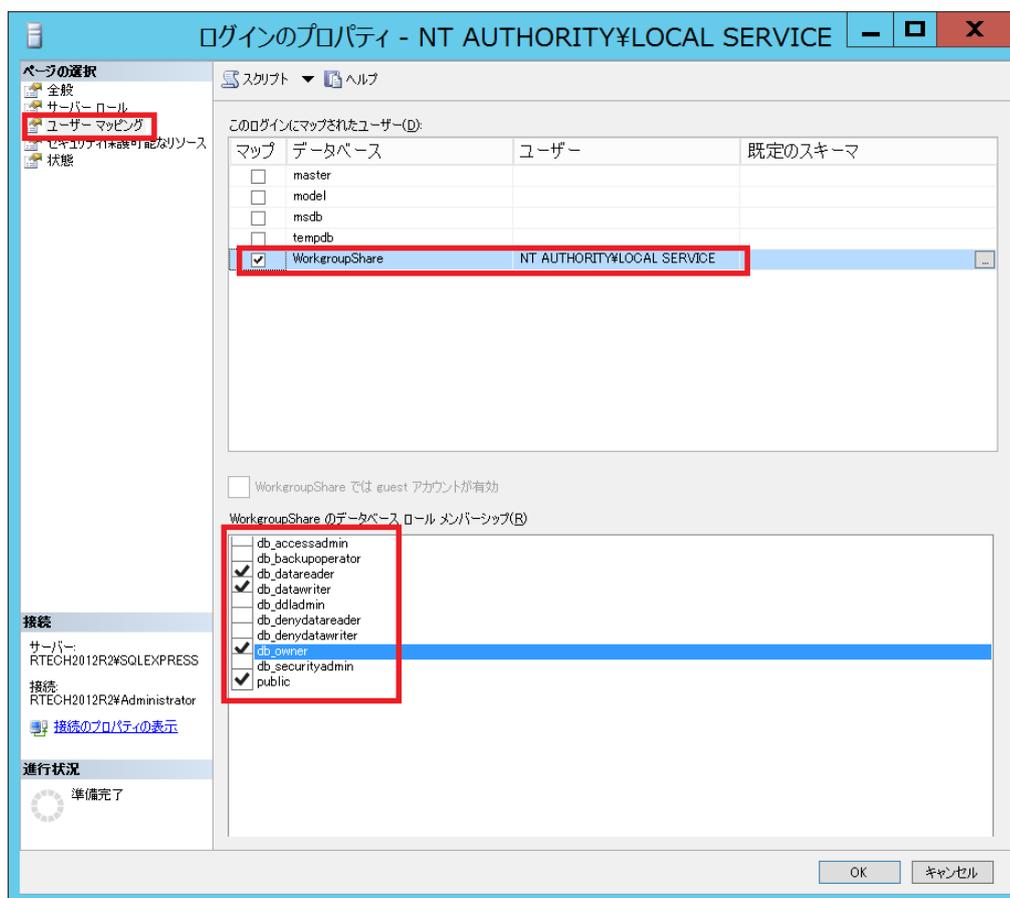
- 5) 下記のように[ログイン名]に追加したオブジェクトが表示されているのを確認後、設定画面下のOKをクリックします。



- 6) 「オブジェクト エクスプローラー」の [セキュリティ] - [ログイン] の NT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE を右クリックしてメニューから [プロパティ] をクリックします。



- 7) 「ページの選択」から [ユーザーマッピング] を選択し、右側に表示される [WorkgroupShare] を選択します。画面下の [WorkgroupShare のデータベース ロール メンバーシップ] で下記のように 4 つのオプションをチェックして OK で閉じます。



[WorkgroupShare のデータベース ロール メンバーシップ] で選択するオプション

db_datareader
db_datawriter
db_owner
public

※上記のオプションが選択できない状態のときは、[WorkgroupShare] のチェックを一旦はずし、再度チェックを付けてみてください。

- 8) 下記のオブジェクトに対しても手順 6) ~ 7) を繰り返します。

NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE

NT AUTHORITY\SYSTEM

- 9) SQL Server Management Studio を終了します。

以上で SQL Server オブジェクトの設定作業は完了です。